

会社概要

商号	株式会社 クリエイティブネクサス
代表取締役社長	井上啓子
本店所在地	東京都港区六本木3丁目4番23号
電話番号	03-3587-2666(代表)
ファックス番号	03-3587-2660
設立	1988年4月1日
資本金	7005万円
スタッフ数	60名(2025年1月現在)
主要取引銀行	三井住友銀行 赤坂支店 みずほ銀行 赤坂支店 りそな銀行 赤坂支店 三菱東京UFJ銀行 麻布支店
主な事業内容	テレビ番組の企画制作および販売 ビデオパッケージ等の映像出版物の企画・製作・販売 企業や商品のコンセプトプランニング タレントのコンセプトプランニング 劇場映画の製作および販売 各種イベントの実施 人材派遣業 その他
ホームページ	https://www.cr-nexus.co.jp

2025年度制作番組

【NHK 総合】

所さん!事件ですよ

午後LIVE ニュースーン

(火・水・木・金) 16:00台 蔵出しセレクション

(火) 17:00台 トクシューーン

明日をまもるナビ

ファミリーヒストリー

コント×ドキュメンタリー 笑う会社革命

映像の世紀 バタフライエフェクト

第97回アカデミー賞 授賞式 総集編

鉄道フィラー

プロジェクトAI 若者たちの挑戦 Dコン2025

弾丸ツアーでSHOW TIME! 大リーグ超満喫法

寝る前にクーソーTIME

ヴェルヌが見る夢～X年後の世界～「気象制御」

【NHK Eテレ】

ヴィランの言い分

グレーテルのかまど

植物に学ぶ生存戦略 話す人・山田孝之

阿佐ヶ谷アパートメント

【NHK BS/NHK BS プレミアム 4K】

にっぽん百名山

ニッポンぶらり鉄道旅

英雄たちの選択

世界ふれあい街歩き

ヒマラヤの“青き山”へ～ニルギリ 未踏ルートに挑む～

シリーズ 昭和のあけぼの (1)政党政治に懸ける 最後の元老 西園寺公望

【NHK BS】

cool japan ～発掘! かわいいニッポン～

生中継！第97回 アカデミー賞 授賞式
スポヂカラ！

【NHK BS プレミアム4K】

ねこ育て いぬ育て

【NHK WORLD JAPAN】

EKIBEN JAPAN

【WEB】

味の素 Web

主な受賞番組

2023年

- ・「ヴィランの言い分『ゴキブリ』」NHK E テレ
☆第39回 ATP 賞 情報・バラエティ部門 奨励賞
- ・「植物に学ぶ生存戦略 話す人・山田孝之」NHK E テレ
☆2023年度（第20回）日本植物学会賞 特別賞

2021年

- ・「ねこ育ていぬ育て」
☆第37回 ATP 賞テレビグランプリ 優秀新人賞
- ・『『ありがとう裕さん さらば石原軍団』～日本人が最も愛した男 真実の物語～
☆NHK 編成局長特賞
- ・「cool japan 発掘! カッコいいニッポン『文字』」NHK BS1
☆第22回ヤング映像クリエイターを励ます賞 優秀賞

2019年

- ・「ねこ育て いぬ育て」
☆NHK 編成局長特賞
- ・「ビッグウェーブサーファー ～世界最大の波を求めて～」
☆アメリカ国際フィルム・ビデオ祭 エンタテインメント部門スポーツカテゴリー ゴールド・カメラ賞
(カテゴリー1位)
☆ミラノ国際スポーツ奨励賞

2017年

- ・「北アルプス ドローン大縦走」
☆NHK 編成局長特賞
- ・リアルサウンドが伝える世界「殺人者 34万人の帰郷～ルワンダ虐殺 22年目の”声”～」
☆ギャラクシー賞 奨励賞
☆第33回 ATP 賞 ドキュメンタリー部門 優秀賞
- ・「実践!にっぽん百名山 ～春の山旅スペシャル～」
☆第18回ヤング映像クリエイターを励ます賞 優秀賞

2016年

- ・「人生は18歳で決まる!?!」
☆第32回 ATP 賞 情報・バラエティ部門 奨励賞
- ・「スッキリ!! 特別版 アニーをピンナップ!父と娘のオーディション密着 SP」
☆第17回ヤング映像クリエイターを励ます賞 優秀賞
- ・「スッキリ!! とことんスッキリ調べ隊」
☆第17回ヤング映像クリエイターを励ます賞 努力賞
- ・「cool japan 発掘!カッコいいニッポン」
☆NHK 編成局長賞

2014年

- ・「Rの法則 『人間失格』」
☆NHK 第1センター局長賞

2013年

- ・「僕にはまだ友だちがいない」
☆第30回 ATP賞 新人賞
- ・「癒しのハワイ AtoZ」
☆NHK 編成局長特賞
- ・「cool japan 発掘! かつこいいニッポン」
☆NHK 編成局長特賞
- ・「五体不満足 教師になった乙武洋匡～子どもたちに伝えたかったこと～」
☆Tokyo Docs 2013 優秀賞

2012年

- ・「ドキュメンタリードラマ 似顔絵捜査官 001号」
☆ATP賞 テレビグランプリ 2012 奨励賞

2010年

- ・「青春リアル『私に〈はじめての恋人〉を作ってください』」
☆第12回 ヤング映像クリエイターを励ます賞 優秀賞
- 「リアル×ワールド『ボクの初めてのドキュメンタリー』」
☆ATP賞 新人賞
- 「課外授業ようこそ先輩 15年後の自分へ～映画監督・演出家 堤 幸彦～」
☆児童福祉文化賞 映像・メディア等部門

2009年

- ・「アレ今どうなった？」
☆ATP賞 情報バラエティ部門 優秀賞

2008年

- ・「スーパー職人大集合」
☆ATP賞 情報部門 最優秀賞

2005年

- ・「スーパーテレビ情報最前線 余命2年と言われて… 双子の天使」
☆ATP賞 ドキュメンタリー部門 優秀賞

2000年

- ・関西テレビスペシャル「幻の鯨イッカク ～北極・人間たちの大地へ～」
☆ギャラクシー賞 奨励賞 ☆ATP賞 最優秀賞

1999年

- ・神々の詩「メコンに輝く音色」
☆ATP賞 優秀賞

1998年

- ・「みんなの地球が危ない!! 温暖化防止最前線」
☆EARTH VISION'98 第7回地球環境映像祭 入賞
- ・「ユートピアを夢見た若者たち ～ロシアの天才画家 ステンベルグ兄弟～」
☆ATP賞 番組奨励賞
- ・「巨鯨に挑む ～インドネシアの海人・ラマファー～」
☆ATP賞 優秀賞
- ・スーパーテレビ・情報最前線「突然妻が痴ほう症になった」
☆文化庁芸術祭参加

1997年

- ・BS年始特集「鷹と生きる」
☆ギャラクシー賞 奨励賞
- ・スーパーテレビ・情報最前線「突然妻が痴ほう症になった」
☆ATP賞 郵政大臣賞

- ・名古屋テレビ開局 35 周年記念番組「20 世紀末黙示録 ～もの食う人々～」
☆ギャラクシー賞 奨励賞 ☆ATP 賞 グランプリ

1996 年

- ・素晴らしき地球の旅「台湾万葉集 ～命のかぎり詠みゆかむ～」
☆ギャラクシー賞 選奨 ☆ATP 賞 郵政大臣賞 優秀賞

1995 年

- ・ドキュメンタリー人間劇場「最後の刻 第 2 章」
☆ギャラクシー賞 奨励賞
- ・ネイチャリングスペシャル「魔境イリアンジャヤ ～地球最後の空白大地ニューギニア島 3000 キロ～」
☆ATP 賞 優秀賞

1994 年

- ・ネイチャリングスペシャル「奇跡のアフリカ ～人類創世の大地を行く～」
☆ATP 賞 ベスト 20 番組

1993 年

- ・ドキュメンタリー人間劇場「最後の刻」
☆ギャラクシー賞 奨励賞 ☆ATP 賞 ベスト 20 番組

1992 年

- ・サントリースペシャル「ワトソン博士の不思議で不思議な大地・アフリカの謎」
☆ATP 賞 優秀賞
- ・歴史推理ドキュメント「チンギス・ハーンの陵墓を探せIII」
☆ATP 賞 ベスト 21 番組

1991 年

- ・サントリー夢大賞スペシャル「夢・風にのれ ～風に乗って英仏海峡に挑む～」
☆ATP 賞 優秀賞
- ・日本の絵巻シリーズビデオパッケージ「国宝・源氏物語絵巻」
☆文部省特選 ☆文部大臣賞 ☆教育映画祭最優秀賞 ☆日本 PTA 特別推薦 ☆日本映画ペンクラブ推薦
- ・日本の絵巻シリーズビデオパッケージ「国宝・信貴山縁起絵巻」
☆文部省選定 ☆教育映画祭最優秀作品賞
- ・日本の絵巻シリーズビデオパッケージ「国宝・鳥獣人物戯画」
☆文部省選定 ☆文部大臣賞 ☆教育映画祭最優秀作品賞 ☆日本 PTA 特別推薦 ☆日本映画ペンクラブ推薦
- ・サントリー企業ビデオ「夢みるひとよ めざめよ」
☆第 4 回日本産業映画祭 グランプリ 外務大臣賞 経団連 A 賞第一位 受賞
☆第 30 回日本産業映画・ビデオコンクール 奨励賞

1990 年

- ・サントリーアドベンチャースペシャル「開高健の大いなる旅路・スコットランド紀行 ～悠々として急げ～」
☆ギャラクシー賞 奨励賞
- ・「早坂暁の 20 世紀羅惑物語」
☆ギャラクシー賞 奨励賞

1989 年

- ・サントリーアドベンチャースペシャル「開高健の神秘の氷河湖に謎の巨大魚を追って」
☆ATP 賞 郵政大臣賞 優秀賞

1987 年

- ・サントリーアドベンチャースペシャル「開高健のモンゴル大紀行 ～未知の大地に幻の巨大魚を追って～」
☆ギャラクシー賞 奨励賞 ☆ATP 賞 優秀賞 ☆年間テレビベスト作品賞 ☆朝日新聞回顧テレビ番組ベスト 5
- ・「テレビ・私の履歴書」
☆朝日新聞回顧テレビ番組ベスト 5

「何か自分が納得できるものを残せるまで
やめない」って決めるのが
大事じゃないかなって思います。
今の時代には合っていないのかな？
わかんないけど(笑)。

「何か自分が納得できるものを残せるまで
やめない」って決めるのが
大事じゃないかなって思います。
今の時代には合っていないのかな？
わかんないけど(笑)。

僕もプロになって活躍したいという
気持ちで、クリエイティブネクサスに
入社したつもりです。
最初の試験の時にそんな話をした
記憶があるんだけど、入社したら
「プロでなんかやってやる」とか
「なんか残してやる」とか
「思いつくが普通じゃないかなって」
だから入社したら

僕、プロスポーツ選手で
考えることが多いんだけど、
長く続ける人って結果を出しているし、
結果を出すから長く続けられる。
そもそも目指すべきものがあって
それに伴って苦勞を乗り越えていく
覚悟で、プロでやっていくと決めたはず。
でも、求められなければ

戦力外通告されちゃうような世界が
プロスポーツという仕事にはある。
環境が合わないとか
やりたいことができないとか言って
やめちゃう人がワリといる。
それ、事前に考えられたことだったんじゃない
ないかって思ってます。

映画「くも漫」監督/40歳・勤続年数19年

小林 稔昌

A D が 映 画 監 督

になるまで

「くも漫」の企画は最初
NHKの企画募集に出しました。
なぜかはわからないけど見事に落選しまして(笑)。
その後、ATP(一般社団法人
全日本テレビ番組製作社連盟)の
「若手映画プロジェクト」に応募したんです。
会社の代表が「ATPの支援金は100万円ですが
企画が通った場合は会社として出資します」
というメールを全社員にくれて、
それまでドキュメンタリー作品しか
実績のないプロジェクトだったんですけど、
会社の出資があれば劇映画ができるかもしれないと。
実際9割以上会社で制作費を出してくれて
それは本当に感謝しているというが、
友人や知人に「よく映画監督デビューできたね」
なんて言われますが、
会社が制作費を捻出してくれた話をすると、
「会社が一社員の企画に投資してくれるのは
なかなかない」と。
クリエイティブネクサスはこれまで
映画やドラマはほとんど作ってこなかった。
だからその代表や上司は
それを楽しんでいるところがありますね。
僕の上司(くも漫「プロデュース」は
うちの会社で初めてのドラマを演出したんですけど、
新しい「プロ」チャンネル「プロデュース」が
いかに仕事として充実しているかを
という話をよくしてくれて、
自分も挑戦してみたいって気持ちになったんです。

▼弊社サイトはこちらのQRコードからアクセス



東京海洋大学

海洋科学部 海洋環境学科卒業。

在学中に「プロタイベー」の免許取得。

大学では北極海の研究をしていました。

興味あることに熱中しやすい私は

大学院にまで進み、より専門的な知見を

広めていました。同時に、

研究者として突き詰めただけでなく

世間に面白がりながら伝える役目が

あると思つたようになります。

「こんな面白いこと、みんなに伝えたい！」

映像テレビを一番最初に思いつきました。

企画次第で一つの番組として

誕生させることができると考えたのです。

一つの会社を選んだ理由は、

会社説明会が一番楽しかったから。

実はどんな話を聞いたかは

よく覚えていないのですが…

スゴく大変な業界だところけど

その分面白い人生になるんだと

しゃべるディレクターさんの姿を見て

感じた記憶があります。

いつかお世話になった

北極海の研究チームとともに

北極で未知に挑む研究者を

撮りたいと考えています。

ディレクターをやってみて、この仕事は

「現場監督」兼「演出家」兼「責任者」

なのだと感じます。ペーペーの私でも

ディレクターとして現場「現場」

どんなにペテンのカメラマンさんにも

指差を出し、現場を仕切らなければ

いけないのです。

北極海 → テレビの現場へ

NHK『cool japan』ディレクター / 32歳・勤続年数9年

安田 真帆

その上で、

映像にして魅せるための演出をする。

それができるとなると

現在またまた奮闘中ですが、

一つの仕事を任せてくれて、

どんどん挑戦させてくれるのが

スゴいことだと改めて感じています。

大変な収録がうまくいったとき、

ロケの段取りがうまくいったとき、

たくさん苦労のあと放送できたとき、

それを見た人の反響があったとき、

たまになくうれしいです。

ただ、それはADとして…

ディレクターとしては…

ロケが思つたようにいかなかったり、

思ったように演出できていなかったり、

まだまだ悔しいことだらけです。

自分が胸を張つてどつだ！

と思えるようになること

うれしさ・喜びはまた格別なのだ

百戦錬磨の先輩ディレクターは言います。

またまた先は遠いですが、

目指すものがあると燃えますね。

新しい仕事を覚えるたびに

次の目標がでることも

一つの仕事の魅力です。

▼弊社サイトはこちらのQRコードからアクセス



94年にルワンダ虐殺がありましたよね。

あの時39万人が殺人をして

被害者が80万人もいる。

いまルワンダには死刑がなくて

刑期を終えた人が

故郷に戻るんです。

ごんごん帰郷していて

そこには被害者遺族も

いっぱいいるわけで。

これはどういうことなのか？

これとしてうまくやっていけるのか？

と、この取材するために

実際に出所する人の

出所から帰郷までを撮りました。

『殺人者34万人の帰郷

〜ルワンダ虐殺22年目〜』は

制作期間が3か月半くらい。

殺人者の人たちは、強制労働所で

かつて人を殺めた道具(ナタ)を持って

畑作業をやっているんですよ。

まず、その景色もその状況自体も

とても呑み込めないし、

この人たちが人を殺している

というのは不思議な気分でした。

ルワンダ虐殺では、

もともと仲のよかった隣人を

隣人が殺していた

おもしろくみんな

極悪人っていうわけじゃなくて

人を殺しているのだって

だから、一見普通に見える人が

なぜ人を殺したのか？を見るのが

この番組なんだらうなと思ってやってきました。

ATP賞ドキュメンタリー部門 優秀賞 受賞/49歳・勤続年数 25年
『殺人者34万人の帰郷〜ルワンダ虐殺22年目〜』

成瀬 貴紀

1 か 月

ルワンダにいた。

企画を書く時にいつも考えるのは

取材対象に **矛盾と葛藤**があるかどうか。

ルワンダでは、経済発展と引き換えの

監視された和解があつて、

目の前の殺人者を

どうしても許せない自分に

途方にくれる人がいる一方で、

その怒りを前に反省する気持ちが

追いつかない殺人者がいて、

なぜこんなことになったのか、

それぞれ空を見上げるしかない

時間が流れていました。

「なぜこんなことになったのか、

途方にくれる」というのは

日本を含め、世の中を理解する上で

大事なことのように思っています。

きれいに説明がつくことは

あまり重要ではなくて、

説明のつかない

矛盾と葛藤のある場所で

本当のことに気づかされるし

それはテレビの役割

だと思っています。

気づきや発見のある映像を

これからも作っていきたいと思います。

▼弊社サイトはこちらのQRコードからアクセス



大学時代、

獣医学部で猫の研究に

明け暮れていた自分は

動物行動学の研究者が

動物園の飼育員になると

思っていました。

心のどこかで

TV業界に憧れはあったものの、

結果的には興味本位で入社した自分。

最初の半年はさまざまな番組の

ADを経験させてもらいましたが

初めての経験に

この仕事に慣れる日は

一生来ないんじゃないか

と思っていました。

しかし、だからといって

辞めたいという考えは一切浮かばず、

そんなことよりも

テレビの仕事が楽しいという

思いがまさっていたのは

正直自分でも不思議に思っています。

転職が訪れたのは一年目の秋

「ねこ育て」という番組の

立ち上げスタッフになったことです。

番組の打ち合わせでは

大学時代に獣医学部で培った

猫に関する豆知識を

ひたすら発表する場となり

研究の知識を武器に

貢献することができました

NHK『ねこ育て いぬ育て』ディレクター/29歳・勤続年数3年

梅元 裕矢

犬と猫がきりかきで

ディレクターデビュー

不安はありつつも、

そこで存分に

猫の知識を出し切ったことで

自分をアピールすることができ、

「ねこ育ていぬ育て」で

ディレクターデビューすることができました。

結局大事なのは

知識や技術よりも

自分の考えや思いをアピールすること。

もちろん面白おかしくアピールできたり、

興味を惹くようなアピールが

できるに越したことはありませんが、

そういう技術的なことはさておき、

まずは自分の考えを伝えられることが

大事だと感じます。

この仕事には度重なる会議や企画募集など、

度胸さえあれば

自己アピールできる場が

いくつでもあります。

そして、それができる人・得意な人には

すくく夢のある仕事だと思えます。

▼弊社サイトはこちらのQRコードからアクセス



好奇心に駆られて取材をするのですが、ときに予想もしていなかった出来事、他者と出会い、自分が揺さぶられます。成長という言葉では片付かない経験です。

「勉強の哲学」という人文書としては異例のベストセラーとなった本で

「勉強とは自分を破壊する経験」

だと書かれています。

この仕事は勉強し続けられる場なので、とても楽しいです。

担当した「超人たちのパラリンピック」はパラリンピアンへの障害ゆえに、しかし、にもかかわらず花開いた超人的な能力を

最新の科学実験と

選手の日常に密着することで

解き明かす番組です。

ロケをする中で

最も揺さぶられるのは、往々にして

アスリートたちの日常にあります。

ウクライナのフェンシング選手を

取材したときは、

信仰が日常から

切り離されることなくある生き方に、

トリニダード・トバゴの投擲の選手を

訪れたときは

島国の英雄として自分を律し続ける姿に、

自分を揺さぶられました。

自分が揺さぶられるだけでなく、

番組を揺さぶりながら成立させること、

これも面白さの一つです。

銀行員からテレビマンへ



NHK『超人たちのパラリンピック』
ディレクター/39歳・勤続年数13年

實川 真規

テレビを仕事にしたのは

「知りたいという好奇心」です

赤の他人からの無遠慮なそれは

本当は迷惑以外の何物でもありません。

テレビというメディアがこれまで培った

「信頼」のようなものがあるから

なんとか取材相手は受け入れてくれます。

あらゆる仕事は個人的な欲望を

社会と上手くつなぐという側面を持っています。

私のように知りたいでもいいですし、

表現したいでも、面白くなりたいでも、

いろんな欲望を受け止める

懐の深さがテレビにはあると思います。

就活というと人生の一大事で

失敗できないと思いがちですが、

そんなことありません。

私自身も銀行員から転職しました。

就活はほんの小さな通過点

なのだと思います。

▼弊社サイトはこちらのQRコードからアクセス



入社してからの2年間は

ちょうどコロナ禍、

本来ならば行けたはずの

ロケに行けませんでした。

先輩たちが過ごした

1〜2年目の経験値には

到底及ばないだろうなと

思っていたからこそ、

2年目でディレクターデビューの機会を

もらったことには喜びと同時に

大きな不安がありました。

完成したVTRが

スタジオで流れる時には、

大先輩に「大丈夫か？」

と声をかけられるほど緊張。

放送時には、

SNSに張り付いて10秒ごとに

最新の投稿を更新するほど

視聴者の反応が気になりました。

でも、視聴者や出演者、

身近な先輩などの反応一つひとつが、

ディレクターとしての責任の重さと

テレビを通して何かを伝えることの

面白さをちょっとだけ教えてくれた気がします。

もっともつとこの仕事の面白さを知りたいと

思えた今がスタートライン、

これからが本番です。

NHK『cool japan』ディレクター / 26歳・勤続年数5年

小山 笑那



3年目のスタートライン

面接では必ず

「どんな番組が作りたいの？」と聞かれます。

私は正直それがあんまりピンときていなくて

就活ではかなり苦戦したのですが、

それを補うために考えていたのが

「どんな会社で働きたいか」です。

その中でうちの会社を良いかもと思ったポイントは

女性のディレクターがたくさん活躍していたこと。

プロとして番組を作るんだったら

長く働きたいと思っていたので、

結婚や出産をしても

ディレクターを続けられるという

環境に惹かれました。

どんな番組が作りたいかも大事ですが、

どんな会社で働きたいかぜひ考えてみてください。

就活の時期は、

自分のことを知る1年になりました。

日々なんとなく生きてきた人も

自分を偽って生きてきた人も

「自分がどんな人間か」

「どんな仕事をしたいのか」

「どんな事ができるのか」、

考えなくてはいけなくなりました。

でもたくさん考えれば、

希望通りの会社に入れても入れなくても、

自分のことを知る大きなチャンスです。

▼弊社サイトはこちらのQRコードからアクセス



「ごもかしこも」

『わかりやすさ』を求められるけど

世の中は、全然わかりやすくなってるんでない、だから豊かさや美しさに満ちていますよね。

NHK ETV「植物に学ぶ生存戦略 話す人・山田孝之は

『んな、簡単にわかりやすくされてたまるか！』

と思ってるはずの、植物や、山田孝之さん、いろんなスペシャリストたちの思いをまとめて、かたちにしていく仕事か

面白くてしかたない番組です。

「仕事が面白くなるか、どうか」は、

つまるところ自分が、

どう体を動かして、どう心を動かすかで、

ものすごく面白くすることができる

仕事だと思えます。

最初の2〜3年は、

いろんな現場で体を動かさないと、

心があんまり動いてこない仕事だと思えます。

実際に2〜3年、働いてみないと、

世の中の人々が、

どんなことに喜怒哀楽を感じているのか、

うまく感じられないので。

映像制作の仕事は、

映像で他者の心を動かす仕事です。

だから、自分の心も動かさないで、

他者の心を動かすことはできないと思っています。

わけのわからない番組

を目指しています

NHK『植物に学ぶ生存戦略 話す人・山田孝之』
ディレクター/52歳・勤続年数28年

長友 祐介

映像制作は「どこでもドア」

映像をつくるために、

世界中のいろんな現場へ行き、

様々な人に会うことができます。

会いたかった憧れの人や、

行きたかった絶景の地、

ほんとうにどうしても会いたい、

どうしても行きたい思いを

持ち続けていれば、その夢が叶う。

それは、他の職種よりも

確実にチャンスが広がっている。

心が動く美しさ、愛しさに、

この世界は溢れています。

そんな美しき、愛しき出逢いを、

自分だけのものにしたくない、

とこころ思いが在る方は、

是非、いつしよに限りある人生を美しく、

楽しい人生にするために、

いつしよに映像をつくりまわす。

▼弊社サイトはこちらのQRコードからアクセス

